2025年（令和7年）10月17日発行

NPO法人沖縄伝承話資料センターだより

はにんす 31号

2025年7月22日（火）午前10時30分から12時、沖縄国際大学3号館202教室で丸山顕徳先生の講演会が行われた。講演会は、センター会員の祷晴一郎さんが受け持つ「沖縄の民話」という講義の中で行われ、学生約 120名とセンター会員約15名が受講した。

演題「沖縄の神話と古事記の神話」

講師：丸山　顕徳（まるやま　あきのり）
花園大学名誉教授・当センター理事

NPO法人沖縄伝承話資料センター二〇周年を記念して、二〇二五年（令和七年）七月二二日（火）午前十時三〇分から、沖縄国際大学三号館二〇二教室で、当センター理事の丸山顕徳先生が講演を行いました。

丸山先生は、センターの初代理事長・遠藤庄治先生（故人）の大学（立命館大学）の後輩で、一九七三年（昭和四八）八月の民話調査をきっかけに、毎年のように来沖して調査に参加しています。これまでに二〇〇回近く沖縄に訪れているそうです。その調査で得られた資料を基にした論文や著書が多数あります。

今回は「沖縄の神話と古事記の神話」という題でご講演いただきました。左記に講演の内容を要約して紹介します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

私は奈良県の橿原市に住んでいます。天武天皇が造った藤原京があるところです。今日は、古事記の神話と沖縄の神話についてお話しようと思っています。

まず、この本を紹介させて下さい。祷先生に頼んでこの大学の図書館から借りてきてもらいました。『世界神話伝説大事典』という本です。この本は私と篠田知和基先生と二人で監修しました。執筆者は百名です。三千部刷ったのですが、すぐに売り切れてしまいました。今はオンデマンドで買うことができます。神話を研究するときにはとても役に立ちます。

私が最初に沖縄に来たのは一九七三年です。そのときに国頭の安波に行きました。そこで、ガスコンロの後ろに石を三つ置いた火の神を見ました。石が三つ。どこで拾った石かと訪ねると、海岸で、きれいな石を三つ拾ったとおっしゃっていました。

中国の火の神様は、祝融（しゅくゆう）といって、悪い事をすると火事を起こす怖い神様です。日本でも戦前、火事が起こると「祝融舞う」という表現で報道されていました。

よく沖縄の文化は本土の文化とは違うといいますが、それは誤りです。『沖縄文化史辞典』という本があります。それを読むと、京都、大阪の近畿地方の文化とよく似ていることがわかります。

そこで「沖縄の文化はどこからきたか」ということです。沖縄の研究者で有名な伊波普猷さんは「北から」という「南漸説」を唱えました。一方、こちらも有名な柳田国男さんは「南からきた」と言っています。対立しています。学説というのは、対立することが大切で、対立しながら進んでいきます。

私は、「北から伝わった文化ものもあれば、南から伝わった文化もある」と考えています。

ウサギとワニの話があります。ウサギがワニを騙して離島から本島に海を渡るという話です。この話は沖縄にはありません。インドネシアやインドを中心にすごく広がっている話ですが、沖縄にはありません。そして、古事記には載っていますが、古事記以外には載っていません。日本列島の北にいくと、ウサギがキツネになり、ワニがクジラに似た生き物になります。日本列島の北の方はみんなキツネですが、南の方はウサギやジャッカルなどいろんな動物になります。

火の神の話は、古事記にも出てきます。海の底から粘土を取ってきて、それで石を作って、それで火を起こすという話です。ここで大事なのは、「火はどこから来るか」ということです。「火は海の水の中から来ている」のです。火と水は対極にあるわけですが、火は水の中からきています。それを初めて言った人は、フランスの人類学者のレヴィ＝ストロースという人です。そのことを篠田先生が『水と火の神話』という本の中に書いてあります。

日本神話の骨格は、天地創世、高天原神話、出雲神話、日向神話、神武東征が大枠ですが、その最初に天の神様が島を造って、できた島を動かす話があります。宮古の来間島には、来間島は太陽が蹴飛ばして流れ着いた島だという話が伝わっています。与那国島も流れ着いた島です。島の女の人が腰巻を脱いで振ったら、流れていた島が止まったという話です。

塩は大切です。塩がなければ人間は生きられません。塩は穢れを祓うときにも使います。葬式に行った後に穢れを祓うために塩をかけます。これは日本全国にある風習です。日本人の信仰の根幹にあるもの、それが「祓う」です。神社の神主さんもお祓い棒でぱっぱと祓ってくれます。

もう一つは、水によって浄化する、心身を浄めるという信仰です。お風呂に入る、シャワーを浴びることも浄化するということです。

そして、日本神話の最後に蛇の神様が出てきます。普天間神宮の神様も蛇です。日本列島の北から南まで「水の神」は「蛇」です。韓国に『三国遺事』という古い文献があります。それは日本の平安時代から鎌倉時代に書かれた本です。その本では、蛇が蚯蚓（みみず）になっています。台湾や韓国、中国では、いろんな動物が水の神として出てきます。文化が違うということです。遠藤先生の『著作集』の中に載っている普天間権現の論文にそのことが書かれています。

次はお墓の話です。沖縄で「お墓で弁当を食べた」「お墓でデートした」などという話を聞いたことがあります。それはさすがに今の近畿地方にはない風習ですが、奈良時代には、「家の中にお墓があった」というのです。『六国史』の中にそれが書かれています。高取正男さんが「古代の日本には、墓には穢れの信仰はなかった」と言っています。沖縄では今も古代日本の信仰を残しているということです。そ

れが沖縄の文化の驚くところです。沖縄のあの世は明るいということです。

古事記の中に「しっぽのある人間」の話があります。それは、修験道の霊山である大峰山など、日本に三か所、その伝説を伝えているところがあります。沖縄の宮古島にもしっぽのある人間の伝説があります。しっぽのある人間の話を歴史学者は、山伏が動物を殺して、その動物の皮を這いでそれをまとっているのだといいますが、それはどうかと思います。それは、人間が人間以外の異類と結婚をするという異類婚姻譚が基になって、しっぽのある人間の話が伝わっているのだと思います。

最後にみなさんにお願いがあります。先に、火の神様の三つの石の話をしましたが、その三つの石を、どんなときに、どこで拾ってくるのかを、お年寄りから聞いて、それをレポートにして、祷先生に報告してほしいと思います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

最後に禅の教えでもある「己事究明」と「教化別伝」の言葉を板書して、学生たちを激励して講演を終了しました。

左記に、受講した学生の感想を一部紹介します。

■お墓でご飯を食べる風習が奈良時代にあったということを初めて知った。まだまだ知らないことがたくさんあると気づいた。三つの石（火の神）についても祖父母に聞いてみようと思う。

■三つの石（火の神）の石は、海から拾ってきたものだと祖母が言っていた。

■沖縄には非常にめずらしい話が多くあることを改めて知ることができた。普段の講義よりも広い観点で民話を学ぶことができ、民話への関心が深まった。履修して良かった。

■民話は、歴史上の事柄を背景にその土地に伝わり、今もそれを伝承していることは凄いと思った。

■沖縄には古層の文化が残っており、非常に大切なものだということに気づいた。民話を含め、沖縄の文化をもっと大切にしていきたいと思った。

■当たり前だと思っていた文化が世界の古層文化であることを知って驚いた。

■沖縄の文化は「北上説」でも「南漸説」でも言い切れないということがわかった。

■「火は水の中から生まれる」という話が興味深かった。

■「己自究明」「教化別伝」という言葉を知り、これからの研究や人に教えるときに大切にしていきたいと思った。

■丸山先生の話を聞いて、改めて沖縄の民話の大切さを知った。それを次世代に伝えていくのが私たちの使命だと思った。

▶講演終了後、久ぶりに会員らと談笑する丸山先生（左端）。沖縄国際大学三号館ロビーで。

〈丸山顕徳先生の主な著書〉

『沖縄の民話と他界観』海鳴社
『沖縄民間説話の研究』勉誠社
『世界の龍の話』三弥井書店
『古代文学と琉球説話』三弥井書店
『口承神話伝説の諸相』勉誠出版
『世界の洪水神話 - 海に浮かぶ文明』勉誠出版
『古代世界の霊魂観』勉誠出版

お知らせ！

記念講演会―第二弾―

「ジュゴンの文化史と伝承話―遠藤庄治が構想した世界・ジュゴンと津波―」

講師：泉　武（いずみ　たけし）

日時：二〇二五年（令和七年）十一月八日（土）十四時～

場所：名護博物館　体験学習室

※当日、午前十一時～十二時、センター会員による「民話の語り」もあります。（別紙チラシ参照）

なお、当講演会は、名護博物館で開催する左記の特別企画展の同時期開催イベントとして協力をいただいています。

～クジラ専門の研究所による特別企画～

クジラってどんな生き物？

期間：十一月一日～三〇日

主催：名護博物館

（一財）日本鯨類研究所

協力：名護漁業協同組合

創作民話劇「鬼慶良間」特別鑑賞会決定！

二〇二五年（令和七年）

十一月二三日（日）

十三時開演

※十二時三〇分開場

沖縄国際大学厚生会館

四階ホール

創作民話劇「鬼慶良間」は、沖縄国際大学日本文化学科一年次のプロジェクト演習として取り組まれている舞台演劇で、毎年、沖縄国際大学の学園祭で上演されています。脚本は当センター初代理事長の遠藤庄治（故人）によるもので、その脚本だけを受け継いで、毎年、一年生がゼロから作り上げていくという取り組みです。

一九九〇年頃から取り組まれているもので、現在は、フリーアナウンサーの佐渡山美智子さんが講師として指導にあたっています。佐渡山さんが引き継いで二〇年ほどになるそうです。

物語は、渡嘉敷島に伝わる「鬼慶良間」という英雄譚を基にしており、鬼慶良間の残した「命どぅ宝」という言葉から平和を願う劇になっています。

大学祭では、二日間上演しますが、例年、二日間とも満席であるため、今回、当センターの二〇周年記念事業として、特別上演をお願いして上記の日程が決定しました。会員のみなさん、この機会に、ぜひ創作民話劇「鬼慶良間」をご覧下さい。感動しない人はいないと思います。

2025年2月22日に名護市屋部の屋部支所ホールでも上演されました。鬼慶良間の役者が屋部中学校の出身でした。

■会費の納入よろしくお願いします！

①ゆうちょ銀行

口座番号：01760-0-78884

②沖縄銀行宜野湾支店

口座番号：1371606

口座名義は下記のとおり

特定非営利活動法人

沖縄伝承話資料センター

NPO法人沖縄伝承話資料センター20周年記念

式典と祝賀会

2026年（令和８年）

３月20日（金・祝日）14時～

沖縄国際大学厚生会館４階ホール

会員のみなさま！まずは、日程の確保をお願いします。

日時と場所は決定です。後日、案内状を送付します。